

バックアップ・リストア

本書では、現場と設定のバックアップとリストアの方法について解説します。



※解説内容がオプションプログラムの説明である場合があります。
ご了承ください。

目次 バックアップ・リストア

バックアップ・リストア	1
1 バックアップの概要	1
2 現場データをバックアップする	2
3 現場データをリストアする	3
4 全設定をバックアップする	5
5 全設定をリストアする	8
6 自動バックアップについて	10
7 履歴ファイルについて	11

バックアップ・リストア

バックアップ・リストアの概要・操作を確認しましょう。

1 バックアップの概要

ONE のバックアップは、[現場管理]で行います。バックアップしたデータを戻す(リストアする)場合も現場管理で行います。

ONE のバックアップには、次のような種類があります。

【現場のバックアップ】

ONE のデータをバックアップする場合に行います。各現場単位、工区単位、全工区単位でバックアップを行います。

【設定のバックアップ】

ONE で使用している各種設定ファイルのバックアップを行います。

各種設定を別々でバックアップする場合は[設定のバックアップ]コマンド、各種設定をまとめてバックアップする場合は[全設定のバックアップ]コマンドを使用します。[設定のバックアップ]コマンドですべての項目のバックアップを行っても、[全設定のバックアップ]コマンドで行ったバックアップとは異なり、レジストリに保存している設定項目などがバックアップされません。全設定のバックアップをお勧めします。

次ページより、現場と設定のバックアップとリストアの方法を解説します。

各バックアップの動作をよく理解頂き、お客様自身の管理・責任の上でバックアップを行ってください。

注意

コンピューターも他の家電製品と同じように故障する場合があります。また、ちょっとしたミスでデータを削除してしまうこともあるかもしれません。

バックアップとは、保存されている現場や工事のデータファイル、および設定ファイルを別のメディア(HDD、CD、DVDなど)に保存することです。(CD、DVDには直接バックアップできません。いったんHDDの別の領域にバックアップしてから、コピーする必要があります。)ご使用中のコンピューター内のHDDなどにバックアップを行ってもバックアップとはいえません。

お客様が作られたデータはお客様にとって大切な財産です。万が一の不慮の事故による被害を最小限に止めるために、お客様自身の管理・責任において、データは必ず定期的に2か所以上の別のメディア(HDD、CD、DVD)にバックアップとして保存してください。

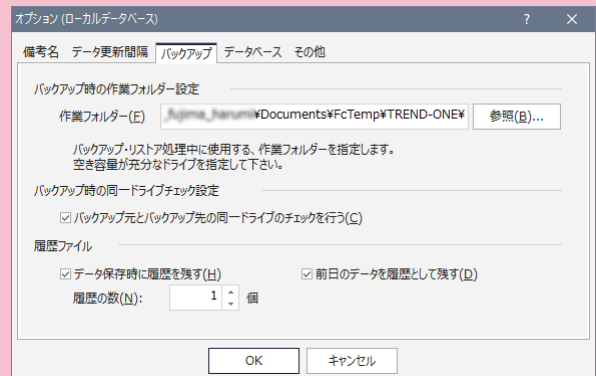
また、いかなる事由においても、データ破損などのお客様の損害は、弊社では補償いたしかねますのでご了承ください。

2 現場データをバックアップする

現場データをバックアップします。

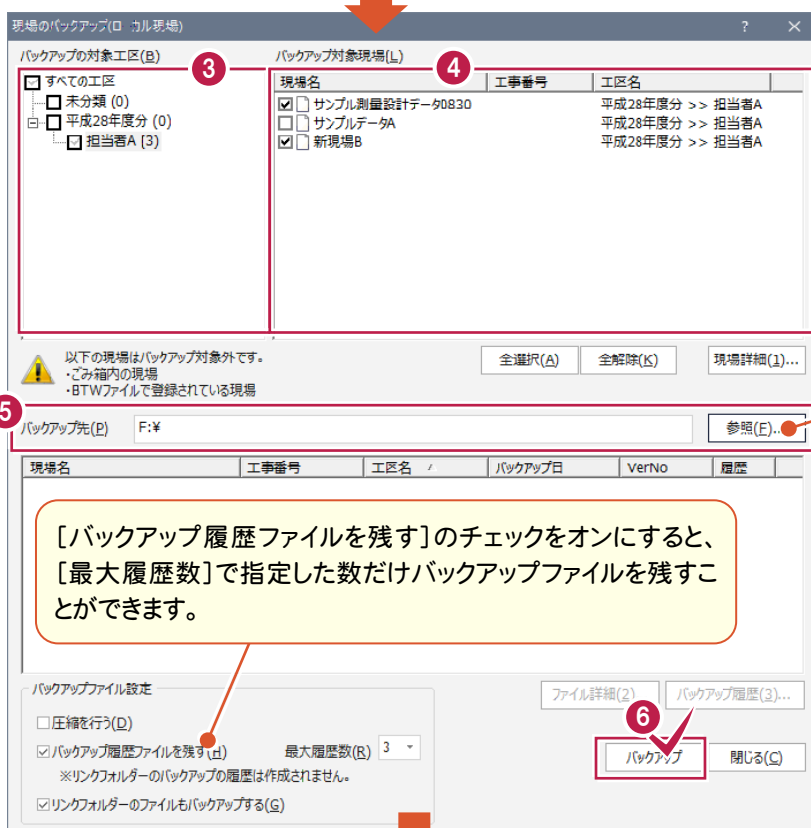
注意

バックアップは現場管理以外のすべてのONE 関連のプログラムを終了してから行ってください。作業中の現場データをバックアップすることはできません。また、現場管理の[ファイル]-[オプション]の[バックアップ]タブで、現場の設定やバックアップ/リストア時の一時ファイルを作成する作業フォルダーを設定します。作成される一時ファイルは非常に容量が大きくなる(約数十MB)ため、作業フォルダーに十分な空き容量が必要となります。空き容量が十分なドライブフォルダーを指定しておいてください。



1 [書込]タブをクリックします。

2 [バックアップ]グループの[現場]をクリックします。



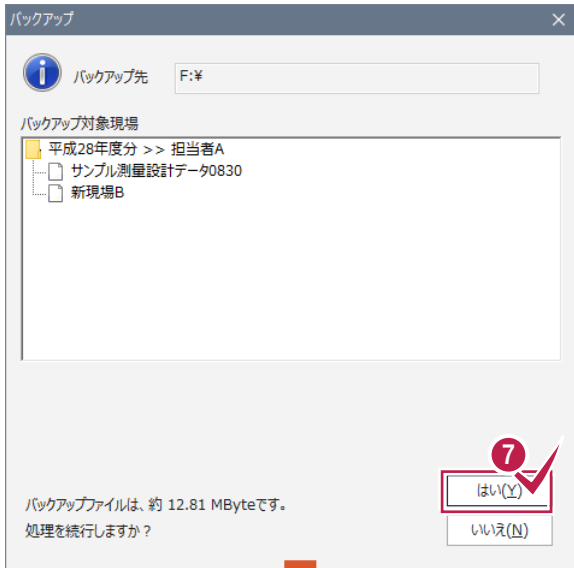
3 バックアップする工区のチェックをオンにします。

4 バックアップする現場のチェックをオンにします。

5 バックアップ先のパスを入力します。

[参照]をクリックして表示される[フォルダーの参照]ダイアログで[バックアップ先]を指定することもできます。

6 [バックアップ]をクリックします。

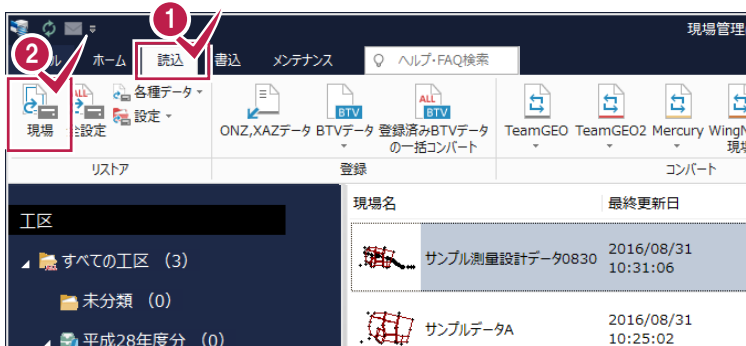


7 バックアップ先、バックアップ対象現場、容量を確認して[はい]をクリックします。

8 [OK]をクリックします。

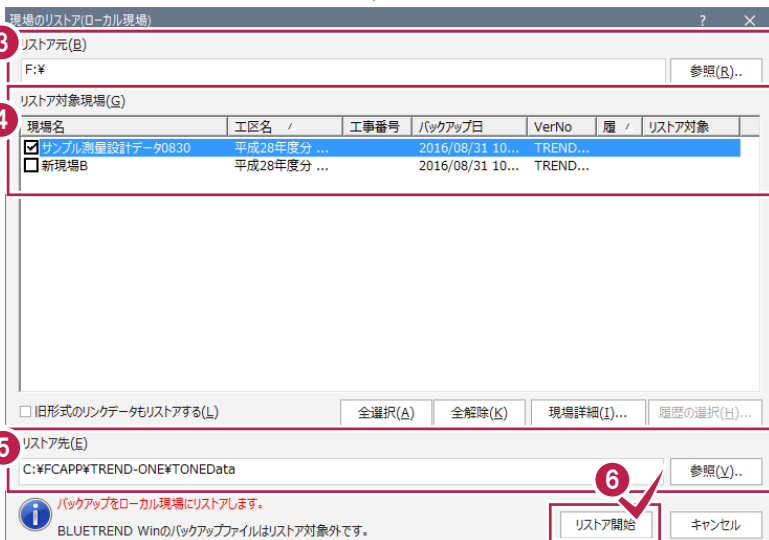
3 現場データをリストアする

バックアップした現場データをリストア(復元)します。



1 [読込]タブをクリックします。

2 [リストア]グループの[現場]をクリックします。

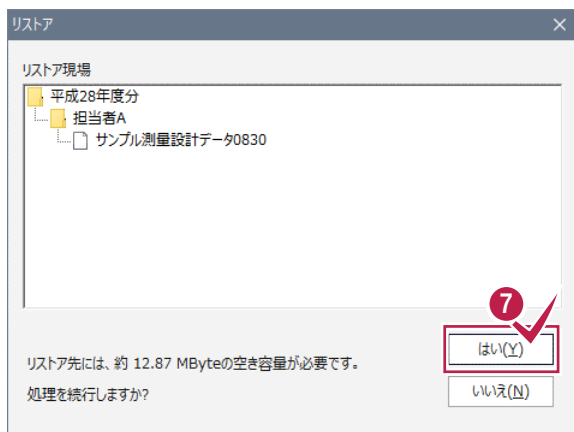


3 バックアップファイルの保存先を指定します。

4 リストアする現場のチェックをオンにします。

5 リストア先を指定します。

6 [リストア開始]をクリックします。



7 リストアするデータの容量を確認して [はい] をクリックします。

8 [OK] をクリックします。

メモ

リストア時のファイル名について

バックアップした現場データは、基本的にバックアップ時の現場名でリストアされます。既にリストア先のフォルダーに同一の現場名が存在する場合は、現場名の先頭に「リストア～」が付加されます。

現場名	最終更新日	計画機関名	主任技術者	作業進捗	工期着手日	工期完了日	座標数	地番数
サンプル測量設計データ0830	2016/08/31 10:31:06			未着手	2012/05/07	2012/05/07	141	10
サンプルデータA	2016/08/31 10:25:02			未着手	2012/04/26	2012/04/26	57	10
新現場B	2016/08/31 10:31:06			未着手	2016/08/31	2016/08/31	0	0
リストア～サンプル測量設計データ0830	2016/08/31 10:48:08			未着手	2012/05/07	2012/05/07	141	10

メモ

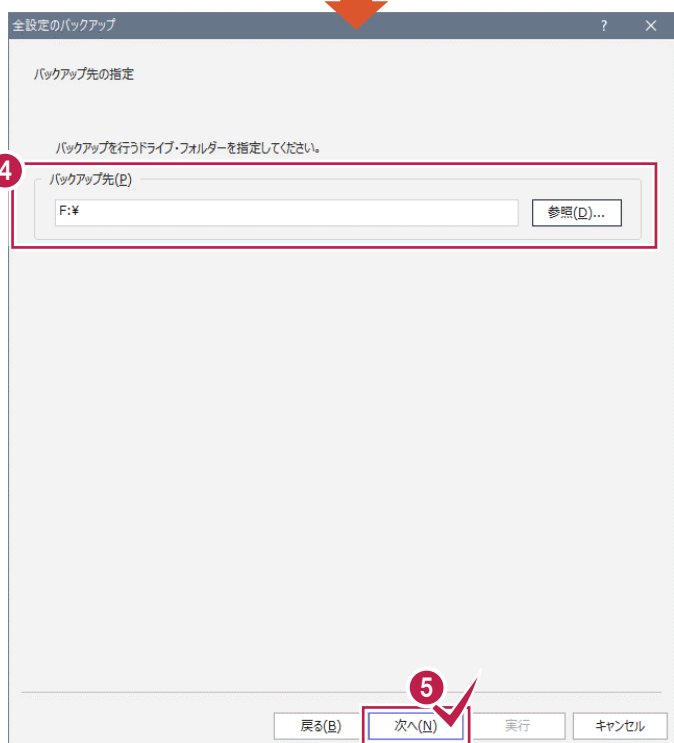
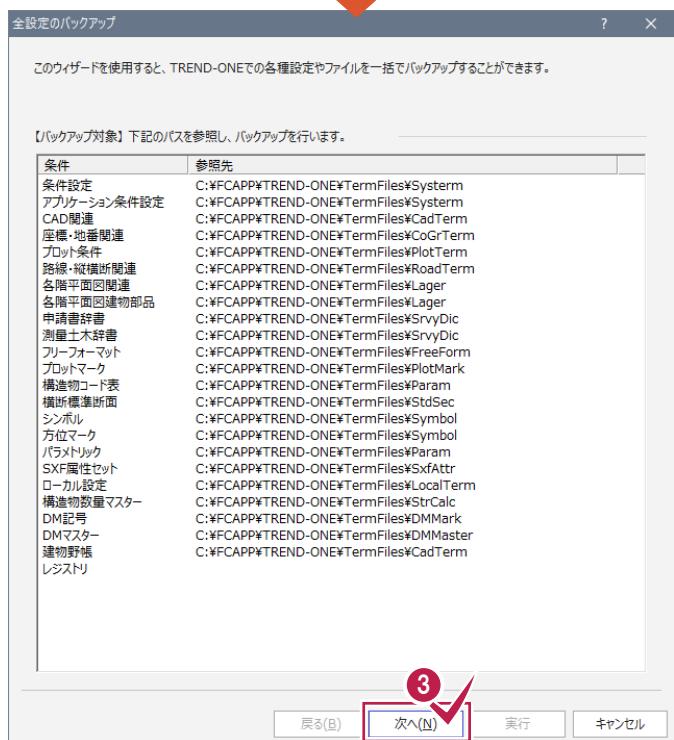
サーバークライアント(共同編集あり)でインストールされている場合

ローカル現場のバックアップデータは、「ローカル現場」のみにリストアできます。サーバー現場のバックアップデータは、「ローカル現場」「サーバー現場」の両方にリストアできます。リストアを実行する前に、リストア先の「ローカル現場」または「サーバー現場」を選択しておいてください。

4

全設定をバックアップする

全設定をバックアップします。

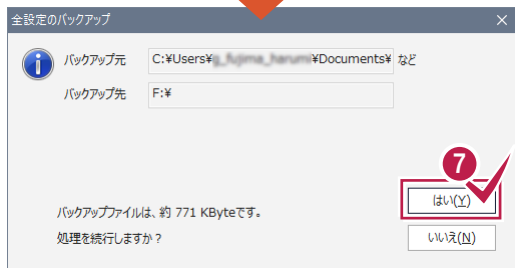


- 1 [書込]タブをクリックします。
- 2 [バックアップ]グループの[全設定]をクリックします。
- 3 バックアップされる条件を確認して[次へ]をクリックします。

- 4 バックアップ先を入力します。
- 5 [次へ]をクリックします。



6 [実行]をクリックします。



7 バックアップ元、バックアップ先、バックアップするデータの容量を確認して [はい]をクリックします。



8 [OK]をクリックします。



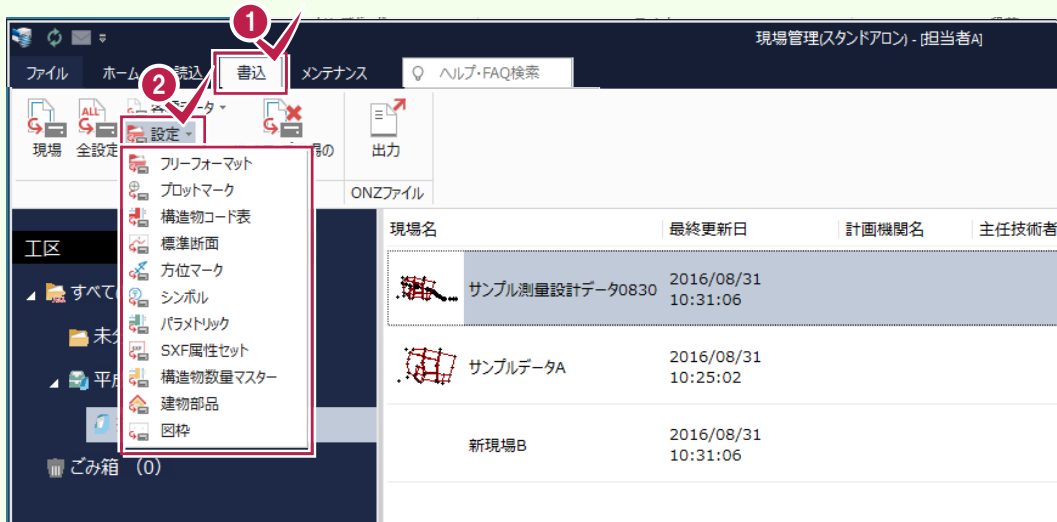
9 [閉じる]をクリックします。

設定を個別にバックアップするには

現場管理の[書込み]タブ-[バックアップ]グループ-[設定]の各コマンドでは、設定ファイルを個別にバックアップすることができます。

各コマンドでバックアップされるデータの内容とファイルについては下表を参照してください。

これらのバックアップファイルのリストア(復元)は現場管理の[読込]-[設定]の各コマンドで行います。



コマンド名	バックアップ内容	バックアップ元
フリーフォーマット	フリーフォーマット作成で作成した計算書・求積表などの様式データ	¥FcApp¥Mercury-ONE ¥TermFiles¥FreeForm ¥FftV5.Dat
プロットマーク	プロットマーク登録で作成したプロットマーク	¥FcApp¥Mercury-ONE¥TermFiles¥ PlotMark ¥PlotMark.Dat
構造物コード	縦横断面測量、横断標準断面登録の[構造物]-[入力]で設定した構造物コードの表のデータ	¥FcApp¥Mercury-ONE¥TermFiles¥ Param ¥StrCode.Dat
標準断面	横断標準断面登録した標準断面データ	¥FcApp¥Mercury-ONE¥TermFiles¥ StdSec ¥StdSec.Dat
方位マーク	CADの[汎用]-[特殊図形]-[方位登録]で作成した方位のマークデータ	¥FcApp¥Mercury-ONE¥TermFiles¥ Symbol内の Hmark.hmxなど拡張子が*.hmxのファイル
シンボル	CADの[汎用]-[特殊図形]-[シンボル登録]で作成したシンボルデータ	¥FcApp¥Mercury-ONE¥TermFiles¥ Symbol内の 建物記号.sbxなど拡張子が*.sbxのファイル
パラメトリック	CADの[汎用]-[特殊図形]-[パラメトリック登録]で作成したパラメトリック	¥FcApp¥Mercury-ONE¥TermFiles¥ Param内の ParamV3.dedなど拡張子が*.dedのファイル
SXF属性セット	CADの[汎用]-[SXF属性]-[属性マスター]で書き込んだSXF属性セット	¥FcApp¥Mercury-ONE¥TermFiles¥ SxfAttr内の 既定義サンプル.sasなど拡張子が*.sasのファイル
構造物数量マスター	CADの[汎用]-[特殊図形]-[数量計算編集]で作成した構造物データ	¥FcApp¥Mercury-ONE ¥TermFiles¥StrCalc ¥StrCalc.scs
建物部品	建物部品データ	¥FcApp¥Mercury-ONE ¥TermFiles¥Lager内の V2PARTS.prsなど拡張子が*.prsのファイル
図枠	図枠カスタマイズツールで作成した図枠	¥FcApp¥Mercury-ONE¥TermFiles¥CadTerm内の拡 張子が*.frmのファイル

5

全設定をリストアする

[全設定のバックアップ]で設定をまとめてバックアップしたファイルから、選択した設定をリストア(復元)します。

注意

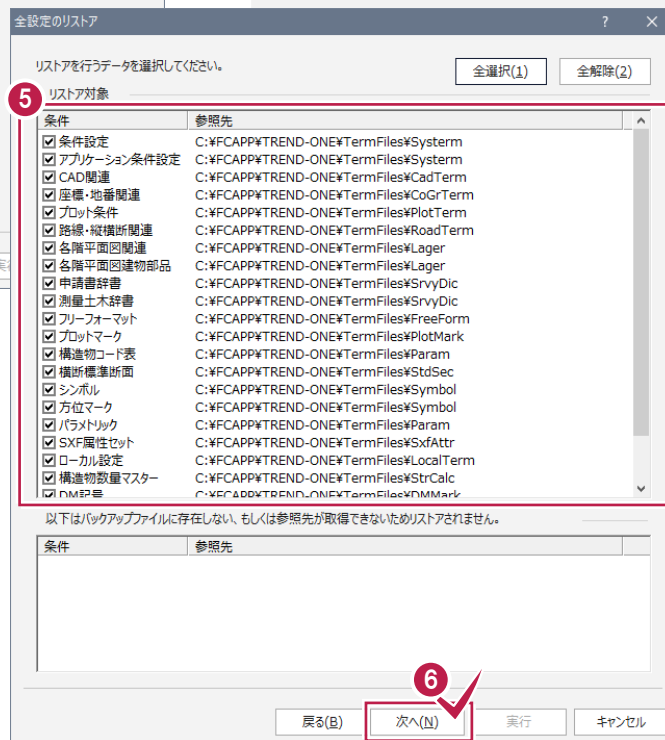
リストアした設定は上書きされますので、注意してください。

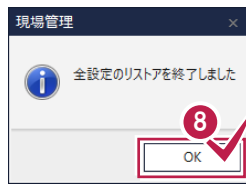


- 1 [読み込み]タブをクリックします。
- 2 [リストア]グループの[全設定]をクリックします。



- 3 リストア元を入力します。
- 4 [次へ]をクリックします。
- 5 リストアする設定のチェックをオンにします。
- 6 [次へ]をクリックします。





7 リストア元、リストアする条件を確認して [実行] をクリックします。

8 メッセージを確認して [OK] をクリックします。

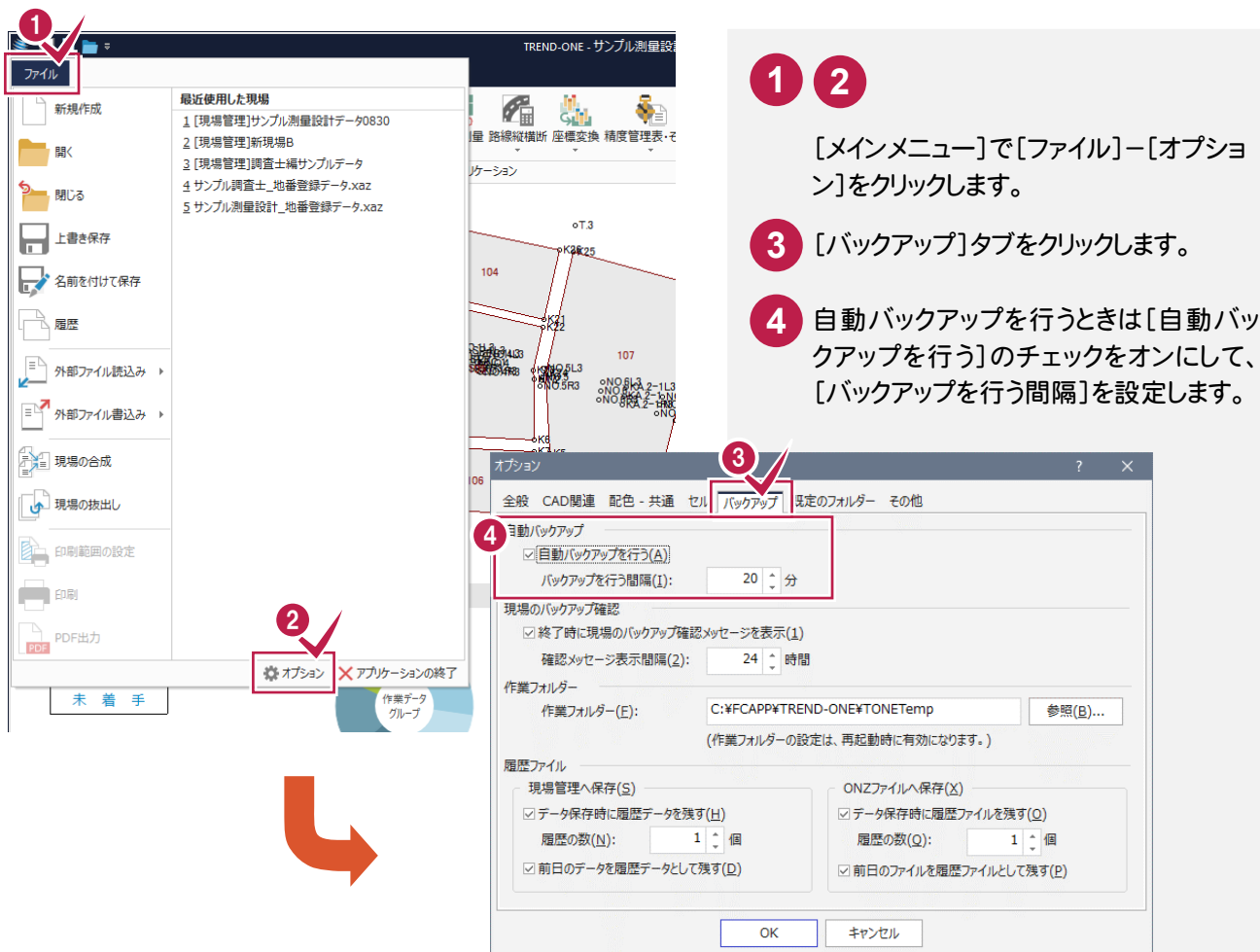
9 [閉じる] をクリックします。

自動バックアップとは、不慮の事故などにより、現場データが消失したり、壊れたりする場合に備えて、自動バックアップファイルを作成する仮のバックアップです。(正常に終了したときは、自動バックアップファイルは残りません。)

バックアップは、現場管理の[書込]タブ-[バックアップ]グループ-[現場]で必ず別のメディアに作成してください。作業中は[ファイル]-[名前を付けて保存]、[ファイル]-[上書き保存]で頻繁に保存してください。

[メインメニュー]の[ファイル]-[オプション]で自動バックアップの設定を行います。

何らかの理由でシステムダウンした場合に、この自動バックアップファイルが残っていると、次にONE を起動したときに読み込むことができます。間隔が短いほど直前の状態が復元可能です。



1 [メインメニュー]で[ファイル]-[オプション]をクリックします。

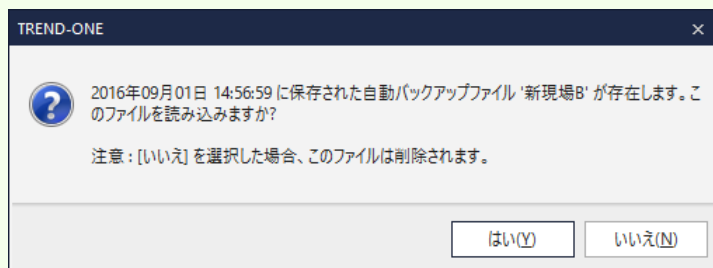
2 [バックアップ]タブをクリックします。

3 自動バックアップを行うときは[自動バックアップを行う]のチェックをオンにして、[バックアップを行う間隔]を設定します。

4

メモ

システムダウン後に ONE を起動すると、自動バックアップファイル読み込みの確認メッセージが表示されます。



バックアップファイルを読み込むときは、[[はい]]をクリックしてください。
[[いいえ]]をクリックすると、バックアップファイルは削除されます。

履歴ファイルとは、保存前のデータを履歴データとして残すファイルです。
 [ファイル]－[オプション]で履歴ファイルの設定を行います。



1 2

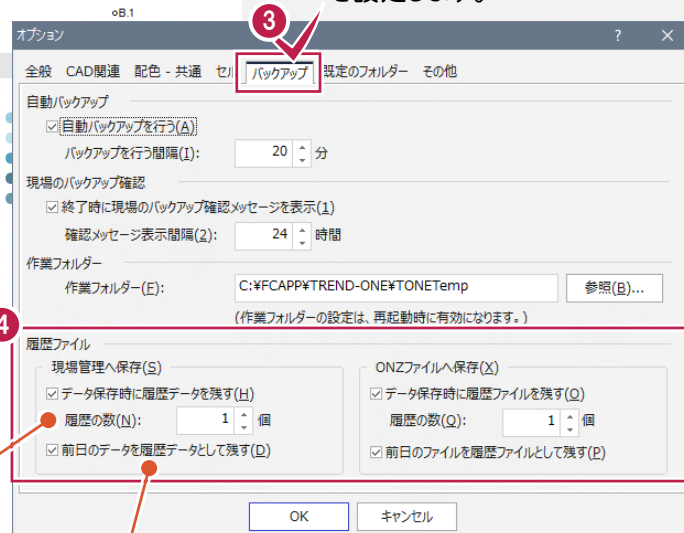
[メインメニュー]で[ファイル]－[オプション]をクリックします。

3

[バックアップ]タブをクリックします。

4

[履歴ファイル]の[現場管理へ保存]で、現場データ保存時の履歴ファイルを設定します。
 また、[ONZファイルへ保存]で現場データをONZファイルに保存するときの履歴ファイルを設定します。



[履歴の数]の最大数は5です。
 ただし、ファイルの容量が大きい場合は、履歴ファイルの数が増えると容量も倍々に増えるので注意してください。

[前日のデータを履歴データとして残す]のチェックをオンにすると、前日の最終保存状態を履歴データとして残します。

